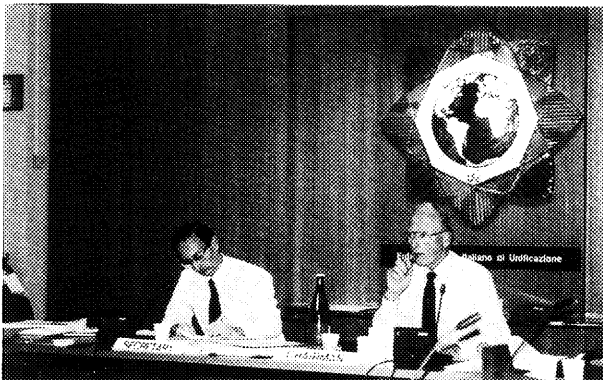


自 転 車 I S O 国 際 会 議 報 告

'96年5月7日に、イタリアのミラノで開催されたISO/TC149（自転車）/SC1（安全基準）に出席した。日本側の出席者は筆者とシマノ・ヨーロッパの田中氏の2名で、合計10ヵ国、22名であった。会議風景を写真に示す。



ISO会議風景

SC1会議はおよそ1年に1回、開催される。その下において、技術資料、自国の国内規格などを持ち寄って、実際に規格作りをする作業部会の会議は個別に1年に数回、開催される。現在、

- WG4：部品の強度試験
- WG5：制動性能試験
- WG6：荷台及び幼児用座席
- WG7：ダイナモトリフレクタ

WG8：オフロード自転車

の五つである。SC1会議は上記WGの進捗状況の説明を受けて、今後の方針の指示、部会提案の採決などを行う。今回のSC1会議で、提起された主な内容は

- 1) 幼児用自転車の制動試験の規格がほぼ固まった。
- 2) オフロード自転車に、本格的なものと同形式車の二つのグレードを設ける。ただし、類形車であっても、走行距離の25%はオフロードを走ることを想定している。現在、このグレードに従って前ホークの疲れ試験と制動試験が提案されている。
- 3) 本格的オフロード自転車の制動試験の規格案は、日本メーカー製の自転車に対する当所の試験結果からすると、かなり厳しい。しかし、制定される情勢である。
類形車の制動試験の規格案は、一般用自転車と同じ内容である。
- 4) ダイナモの表面に電圧、出力（例えば6V、3W）のほかに、従来なかった効率（例えば30%）の表示が規定されようである。

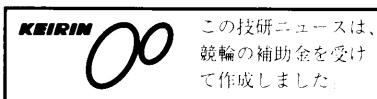
リヤ・ランプは停止してからも4分間光るように、バッテリー、充電器などを備える。乾電池式前照灯に、乾電池の交換時期が分かるように、インジケータを備える。

ISO規格の全体の流れを知るには、SC1会議に、規格へわが国の意見を反映させようとするには、WG会議に出席する必要がある。後者には、他国の賛同を得ようとするとき、技術資料、試験データなどの提出が大事である。

（研究指導部 河治宏泰）

技研ニュース NO.152

（1996年7月15日発行）



発行所：財団法人 自転車産業振興協会 技術研究所

〒484 愛知県犬山市字新川1番の6 TEL(0568)67-0437

FAX(0568)68-1347

大阪支所 〒590 大阪府堺市戎之町西1丁3の3 TEL(0722)38-8521

自振協本部 〒107 東京都港区赤坂1の9の3 TEL(03)5572-6409